

月刊 しばうら

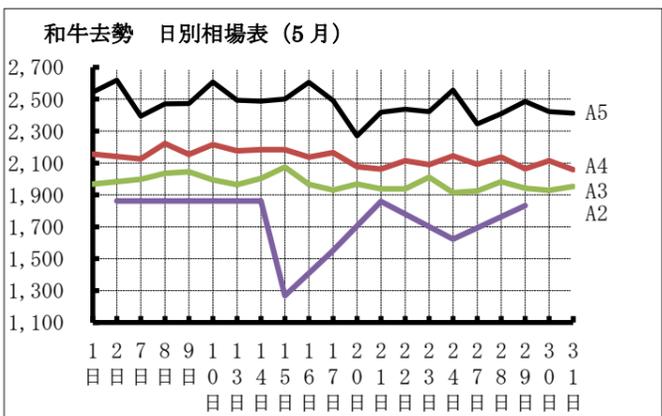
2024年 6月号

牛肉営業部

<5月の相場動向>

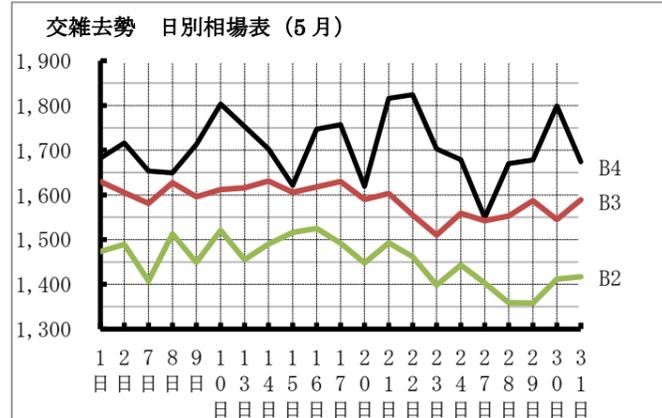
例年、ゴールデンウィーク後はその反動で節約志向になるが、今年は2024年問題による流通コスト上昇などから、食品価格の値上げが相次いでいる。この状況は更なる消費意欲の低迷につながっており、高価格帯にある和牛にとっては厳しい環境となっている。和牛の相場は前年実績を下回り、前月実績でも2等級を除き下回る結果となった。

一方で交雑牛に関しては、米国産牛肉の価格高騰や不安定な入荷状況もあり、量販店などから代替品としての引き合いが堅調で、2・3等級が前年比を大きく上回り、前月比でも3・4等級はもちあい、2等級が若干弱含みの相場展開となった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,491円	-87円 96.6%	-32円 98.7%
A4	2,141円	-106円 95.3%	-44円 98.0%
A3	1,974円	-54円 97.3%	-74円 96.4%
A2	1,676円	-152円 91.7%	+11円 100.7%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,704円	+19円 101.1%	-4円 99.8%
B3	1,590円	+83円 105.5%	-17円 98.9%
B2	1,442円	+87円 106.4%	-58円 96.1%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	-	-	-

<6月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、4月の輸入量は前年同月比6.9%減の6万3,240tで、うちチルドは13.8%減の1万8,196t、フローズンも3.8%減の4万5,045tとなり、共に前年同月比を下回り前月実績は上回った。

農畜産業振興機構によると4月の牛肉輸入数量は、前年同月比26.7%減の4万9,800t(チルド17.9%減・冷凍30.5%減)、5月は8.7%減の4万2,400t(チルド0.6%減・冷凍12.8%減)と予測している。

現地価格の高騰などにより米国産輸入量の減少が見込まれる一方で、前年同月の輸入量が少なかったことから、豪州産はやや増加する予測となっている。

輸入牛肉通関量		4月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,813	8,925	98.7%
	米国	7,873	10,556	74.6%
	その他	1,510	1,624	92.9%
	合計	18,196	21,105	86.2%
フローズン	豪州	21,189	18,131	116.9%
	米国	14,433	16,922	85.3%
	その他	9,423	11,755	80.1%
	合計	45,045	46,808	96.2%

出典：食肉速報 単位：t

<6月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による6月の出荷予測頭数は、全体で前年比99.8%の8万9,200頭で、品種別にみると和牛は4.0%減の3万9,000頭、交雑種は7.6%減の1万9,500頭、乳用種は7.2%減の2万3,900頭と予測している。

また、東京食肉市場の6月のと畜頭数は7,500頭を予定しています。

<6月の牛枝肉相場見通し>

6月からの光熱費などの値上げに対する消費者の生活防衛意識は高く、節約志向が継続する見込みであることから、牛肉需要が大きく回復するとは考え難い。しかし、今月から始まる定額減税の消費波及効果が多少期待できるので、業界としては父の日に合わせた販促を期待したい。

訪日外客数は3・4月に初めて連月で300万人を突破し、円安下でのインバウンドによる更なる牛肉の需要拡大を願いたい。

枝肉相場は、和牛5等級に関しては輸出用や飲食店からの引き合いが有るか無いかで値幅のある展開が見込まれ、他等級は弱含みの展開が予想される。交雑種は輸入品の入荷状況が不安定であることから堅調な相場が予想され、乳用種も出荷頭数の微減が予測されていることから同じく堅調な相場が見込まれる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,250~2,600	B4	1,600~1,700
A4	2,000~2,250	B3	1,500~1,600
A3	1,900~2,000	B2	1,400~1,500
A2	1,700~1,900		
乳牛去勢			
B3	1,000~1,150		
B2	900~1,000		

豚肉営業部

4月の全国と畜頭数は、140万8,522頭(前年同月比6.2%増)と前年を上回った。また4月の豚肉通関数量は9万8,842t(同9.9%減)と前年を下回り、前月比では32.9%の増加となった。内訳はチルドが3万3,719t(同1.1%増)、フローズンは6万5,123t(同14.7%減)。

2023-2024年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
4	73,794	109,570	20,573	204,045	73,312	95,096
5	76,116	89,726	20,193	223,902	76,372	69,869
6	73,486	81,311	19,586	225,208	73,928	80,005
7	68,264	74,831	20,758	220,067	66,926	79,972
8	70,175	73,862	21,032	217,704	69,796	76,225
9	69,500	61,727	21,452	203,477	68,945	75,954
10	78,467	70,100	19,689	192,812	80,065	80,765
11	82,650	74,813	20,154	184,253	82,084	83,372
12	81,152	67,663	21,381	170,120	79,774	81,796
1	80,283	72,051	20,836	173,172	80,748	68,999
2	77,558	64,527	21,439	165,686	76,853	72,013
3	77,333	74,351	23,117	166,119	75,518	73,918
4	78,976	98,780	22,670	174,059	79,317	90,840
比	107%	90%	110%	85%	108%	96%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

4月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	12,519	74.1%	デンマーク	5,631	43.5%
カナダ	17,311	128.6%	スペイン	17,578	60.6%
メキシコ	3,886	130.6%	メキシコ	8,515	92.0%
			アメリカ	10,522	114.7%
			カナダ	6,569	173.9%
合計	33,719	101.1%		65,123	85.3%

単位：t

<5月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	67,900	679	660	966
2日	62,500	648	629	944
3日	-	638	620	815
7日	74,300		上場なし	
8日	69,800	683	674	907
9日	68,800	658	647	944
10日	66,400	665	654	977
13日	65,300	662	651	732
平均	67,857/日			898/日

ゴールデンウィークは各地で観光客が訪れ賑わい、飲食店などの外食需要も好調だった。連休明けは補充手当ても入り、相場は底堅い展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
14日	65,800	664	644	982
15日	62,900	675	652	749
16日	64,900	653	643	635
17日	61,200	676	654	950
20日	59,800	708	681	652
21日	64,600	732	731	782
22日	60,600	760	741	731
平均	62,829/日			783/日

全国的に気温が上昇する中、全国と畜頭数は6万頭前半から半ばで推移した。連休の反動から消費者の節約志向が強まり、国産豚肉の需要はスソ物を中心に底堅く、相場は強含みの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	59,800	757	738	763
24日	61,100	759	749	814
27日	59,500	826	801	799
28日	65,600	806	792	753
29日	58,400	813	799	753
30日	62,500	802	786	746
31日	59,900	836	794	749
平均	60,971/日			768/日

円安の影響から輸入ポークの供給が厳しいことに加え、国内では栃木県、岩手県で相次いで豚熱が発生した。全国と畜頭数は減少傾向で6万頭を割り込む日も多くなってきたことから、27日には相場が800円を超える高値となった。

<6月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和6年6月の肉豚出荷予測では130万9,000頭(前年同月比99.0%)と予測している。

当市場の6月集荷予定せり頭数は1万4,500頭、1日あたりでは約725頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると6月分の豚肉輸入見込数量は、総量で8万3,900t(前年同月比103.2%)、内訳は冷蔵輸入量が3万2,300t(同104.3%)、冷凍輸入量は5万1,600t(同102.5%)と予測。

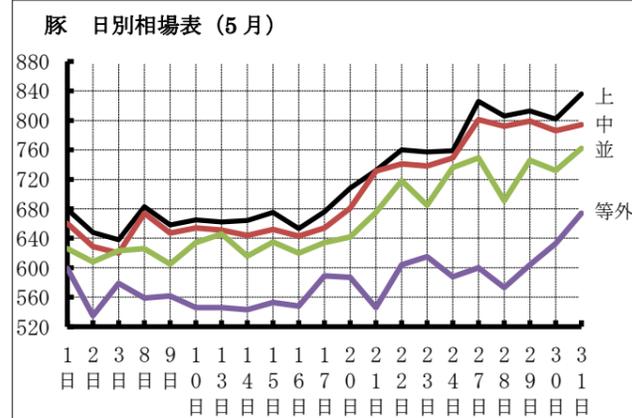
冷蔵品輸入量は価格優位性などによりメキシコ産の輸入量増加が見込まれることなどから、前年同月をやや上回ると予測する。また、3ヵ月平均では前年同期をわずかに上回ると予測する。

冷凍品輸入量は前年同月のデンマーク産輸入量が少なかったことなどから、前年同月をわずかに上回ると予測する。一方で3ヵ月平均では前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

例年、梅雨入り前は需要の端境期にあり末端消費は鈍化することが予想され、消費者の節約意識の高まりもあり、スソ物・ひき材の需要は引き続き強いが、中部位以上の荷動きは鈍いという状況が続くそう。

また、気象庁の予報によると6月後半は気温が平年より高くなり蒸し暑い日が多く、豚の発育不良などの影響が懸念される。さらに、昨年の猛暑による受胎率低下やPRRSなどの疾病により、出荷頭数が低下する可能性がある。今後の出荷頭数次第では、末端需要と関係なく相場が高値で推移することが考えられる。

以上のことから当市場の上物平均価格は680円前後、中物平均価格660円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127